

第2期旭市総合戦略重点プロジェクト総合評価

総合評価
S
A
B
C
D
-

重点1

重点施策1 ＜地産振興プロジェクト＞

	指標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	計画期間 平均値	目標値 (R6)	総合評価	講評
目標指標	開設法人の年間件数 (法人事業所届出書を 受理した件数)	54件 (H30)	66件 S	82件 S	71件 S	60件 A	54件 C	67件	62件	S	平均値が目標値を上回り、総合評価としては【S】としたが、 開設法人数は年々減少傾向にあるため、創業希望者の掘り起こしなど適切な支援は必要である。 なお、期間中の開設法人数の合計333件の内訳は、新たな法人の設立が161件、もともとある法人の事業所設置が172件である。業種としては、福祉関係が最も多く、次点が製造業となっている。
K P I	農業産出額	582億円 (H29)	490億円 (R1) D	489億円 (R2) D	448億円 (R3) D	501億円 (R4) D	559億円 (R5) C	497億円	590億円	D	平均値が基準値より10%以上下回っていることから、総合評価としては【D】としたが、 農業産出額は、R2からR6までの全国ランキングにおいて、6位、6位、11位、8位、5位と継続して全国トップクラス（県内では継続して1位）の産出額を維持しており、R6は目標値に迫る実績まで上昇するなど、本市が誇れる大きな魅力である。 なお、R6は前年度と比較し豚肉や鶏卵の価格上昇等により、養豚で約22億円、養鶏では約26億円増加となり、全体でも約58億円の増となっている。
	道の駅「季楽里あさひ」年間売上額	7億5,200万円 (H30)	8億1,284万円 S	8億3,544万円 S	9億2,986万円 S	9億7,724万円 S	10億5,347万円 S	9億2,177万円	8億円	S	平均値が目標値を上回り、総合評価としては【S】とした。年間売上額は毎年増加し、来場者数もH30と比較して約15万1千人の増、また客単価も順調に増えている。R5から本格的に導入したキャッシュレス決済や酒類の販売なども売り上げ増加に影響していると思われる、今後一層の効果が見込まれる。
	旭市地域職業相談室における紹介成功率 (就職者数/紹介数)	34.1% (H30)	30.8% C	31.8% C	36.9% S	32.7% C	33.4% C	33.1%	34.5%	C	平均値が基準値を下回っており、年度ごとの評価が概ねC評価であったことから、総合評価としては【C】とした。紹介成功率は個人に紹介する紹介数によって変動がでしてしまうことから、引き続き就職者増加に繋げるための求職者に見合った求人を提供していく。 (ハローワーク銚子管内の有効求人倍率 R2：0.82/R3：0.75/R4：0.89/R5：0.87/R6:0.92)

委員からの意見及び市の回答

①開設法人の年間件数のS評価は、令和2年度の数字は高いが、令和5年度から下がっているのが気になる。今後の傾向など分かれば教えてほしい。 【回答】人手不足や物価高騰などにより、新規法人設立や創業が行われにくい状況と思われる、創業セミナーへの参加者も減少傾向にあります。今後も商工会等と連携し、創業希望者の掘り起こしなど適切な支援を行っていきます。
②評価は、実績の平均値と目標値を比べていますが、例えば1番目の開設法人の年間件数は、目標値が62件に対し、実績の平均値は67件で目標値を超えているが、令和6年度の実績は54件であり、年々下がってきているのにS評価となったことを楽観視して良いのか疑問なので、そこを講評欄で少し触れたほうが良い。 【回答】開設法人の年間件数が減少している状況を講評欄に追記するとともに、今後も創業支援など適切な支援に努めていきます。
③農業産出額がD評価ですが、全国ランキングで5位、常にトップクラスで居続けて、かつ県内では継続して1位はとても素晴らしいことだと思う。また、道の駅の売り上げが上昇している。キャッシュレス決済が導入され、私も買い物をしている。駐車場が満車気味な時もあり、ナンバーを見ると遠方から来る方も多いと感じている。これまで店内レイアウトも変更しながら苦労していると思う。 【回答】旭市の特産物をアピールするとともに、引き続き利用者の利便性向上に努めていきます。
④農業産出額は、目標値590億円に対し実績の平均値は497億円となり評価は低いが、年々回復傾向にあり、令和6年度の実績値は559億円と目標値に近づいているので、市民が見たときにD評価でも、もう少しそういった観点の記載があった方が良いのではないかと。 【回答】農業産出額は、令和4年度以降は目標値に近い数値まで上昇しており、平均値での評価ではD評価としましたが、本市として全国トップクラスを維持していることは、知名度アップにつながる大きな魅力でありますので、講評欄に説明を追記するとともに、今後も市内外へのPRに努めていきます。
⑤養豚や養鶏などが増収となってもD評価となっている。それ以外が相当落ち込んでいると考えられるのか。 【回答】農業産出額については、令和2年度から6年度までの実績値を平均したもので評価しています。特に令和3年度においては、鳥インフルエンザの発生等により千葉県全体の農業産出額が減少したため、平均値が基準値を大きく下回る結果となりましたが、令和4年度以降は順調に増加しています。
⑥養豚や養鶏などは、物価が高騰したことによって農業産出額が増収になったものと捉えられると思うが、金額が増加したことで令和6年度の実績の評価が前年より高くなったのか、農業産出量なのか。 【回答】価格の上昇が主な増加要因であり、千葉県全体での農業産出額が増加したことに伴い本市も増加しています。
⑦道の駅「季楽里あさひ」の年間売り上げは順調だと思う。市の顔の一つになっているが、現在レストランが閉店し困っている人がいて残念だという意見を聞いた。 【回答】レストランのテナント化を進めるため一時的に休業していますが、9月に公募による新たな運営事業者の選定を行い、来年3月の開業に向けて準備を進めています。
⑧K P Iの旭市地域職業相談室における紹介成功率のところに、ハローワーク銚子管内の有効求人倍率が記載されている。世の中は人手不足と聞いているが、思ったより低いと感じる。これは周りの地域と比べてどうなのか。また、紹介成功率（令和6年度実績）の33.4%は、どういった職種で成功率が高いのか。また需要と供給のミスマッチがあるのか情報があれば教えてほしい。 【回答】千葉県平均の有効求人倍率が1倍を切っているため(令和7年7月時点)、千葉県全体において有効求人倍率が低い傾向があると考えます。また、紹介成功率の分析として業種別で見ますと、医療・福祉や食料品製造業、卸小売業が多くなっています。
⑨職業相談室利用者の就職者数は、令和6年度で541件と公表されているが、これは県内で一番多い数字である。ハローワークの求職者も減少していて、民間の職業紹介機関の利用が多くなっている。また、ハローワークにおける総合評価では、就職件数をホームページで公表しているが、紹介成功率は掲載していない。 ⑩職業相談室の紹介成功率のところで、移住者の相談を受けているが、当たり前に住むところと仕事はセットである。県の仕事ナビというサイトから就職すると補助金があるので、職業相談室を選ぶ人が少なくなる。就職者とのマッチングを重視するなら、就職者数をK P Iとして考えていく必要がある。 【回答】今年度からスタートした第3期総合戦略のK P Iにおいては、紹介成功率から就職者数に見直しています。
⑪観光について、資料1-1の2ページ目に施策の方針として市のイベントについての記載があるが、七夕まつりなど外部の協力が多くなっていて、今後も継続していけるか心配である。 【回答】イベントを今後も継続していくため、開催方法や規模などについて、関係者や市民の意見を聞きながら必要な支援を行っていきます。

第2期旭市総合戦略重点プロジェクト総合評価

総合評価

重点2

重点施策2 <子育て成プロジェクト>

	指標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	計画期間 平均値	目標値 (R6)	総合評価	講評
目標指標	合計特殊出生率	1.43 (H29)	1.26 (R1)	1.36 (R2)	1.30 (R3)	1.18 (R4)	1.38 (R5)	1.30	1.60	C	両指標とも平均値は基準値を下回っているが、年度ごとの評価においてD評価が半数未満であったことから、どちらも総合評価を【C】とした。合計特殊出生率の基準となる15歳～49歳の女性人口の減少に加え、晩婚化の影響で20歳代の女性の未婚率が上がっていることや、子育てと仕事の両立や経済的な負担を考えて産み控えがあると言われているなかで、目標値を増加とする厳しい設定としたことから、各年の数値はどれも目標値には届かなかった。しかしながら、R6に公表された合計特殊出生率1.38（千葉県1.14、全国1.2）は県内3位であった。また、全国的な出生数が毎年過去最低を記録しているなかで、本市では期間中に増加した年が複数あった。
	出生数	396人 (H30)	402人 (R2)	367人 (R3)	334人 (R4)	385人 (R5)	319人 (R6)	361人	488人	C	
K P I	年間婚姻数 (出会いの場創出事業)	10件 (H30)	4件 D	7件 D	3件 D	3件 D	7件 D	5件	12件	D	平均値が基準値を下回り、年度ごとの評価においてDが半分以上あることから総合評価を【D】とした。コロナ禍等によりイベントの開催回数が少なかった年度が続き、イベントきっかけなどで結婚する人が出てくるまでは時間を要すると思われる。R5からは、飲食を伴うイベントを再開するなど、他団体と合同でイベントを実施することができた。
	乳幼児紙おむつ購入券 給付件数	857件 (H30)	826件 C	815件 C	763件 D	716件 D	673件 D	759件	880件	D	平均値が基準値より10%以上下回っていることから、総合評価を【D】とした。出生数の減少が大きな要因であるが、交付対象となる2歳未満の子どもがいる子育て世帯の転入数の減少による影響もあると思われる。なお、給付購入券については100%（R5利用率）利用されており、 本事業は利用者からも大変好評であるため、引き続き子育て世帯への支援を継続していく。
	家庭教育学級生(小1、 中1の保護者)の合同学 習会(2回)の参加率	46.0% (H30)	17.9% D	30.0% D	26.8% D	37.7% D	25.2% D	27.53%	49.8%	D	平均値が基準値より10%以上下回っていることから総合評価を【D】とした。なお、R5年度はコロナ禍の影響が小さくなったこと、前年度のアンケートの評判が良かった講師を依頼したこと から、参加者が減少する傾向にある2回目の合同学習会の参加率を上げることができたが、R6は、天候が悪かったこともあり減少してしまった。

委員からの意見及び市の回答

①合計特殊出生率の講評欄に県内3位であるとの記載があるが、目標設定があるためC評価となってしまうことはわかるが、これはもうS評価でも良いと思っている。 【回答】本市の令和5年の合計特殊出生率は、全国、県内平均を超えています。ご意見を励みに、本市が安心してこどもを生み育てられるまちとして、引き続き、結婚、出産から子育てまで切れ目ない支援に努めていきます。
②旭市の出生数は県や全国平均よりも高くなっているが、晩婚化や生活の経済的な負担を考えてこどもを生まないということに加えて、今は治療をしてこどもを授かる人も多くなっていると感じている。資料1-2の記載でも、令和7年度4月から不妊治療と併せた先進医療に対して助成を行っていくとあるが、健康上の問題もあるということを視点に加えてもらうよう検討してほしい。 【回答】妊娠・出産の希望を叶えるためには、若い頃からの健康づくりも大切な要素の一つだと考えています。市では先進医療に対する助成のほか、中学校で思春期講演会を開催し、将来の妊娠・出産に向けて健康的な身体づくりなど正しい知識について啓発普及を行っています。
③出会いコンシェルジュの立ち上げに参加し、講師としてイベントに参加してきた。当初は、婚活という言葉も無い時で結婚を目的に行ってきたが、最近では人が集まるように「恋活」と呼ばれ結婚に向かっていないように感じる。この事業の成果を数字で出していくことはどうなのか。この事業が良くないというわけではなく、この事業だけの婚姻数をK P Iとしてみていくと、この事業が駄目なのかという評価になってしまうのはよくないと思っている。 ④「婚活に行く」というと、参加者もあり気持ちがよくないようです。あと、参加者からは話せる時間が短いという意見の方もいるので、イベント内容について物を作ることも良いが、話せる時間が欲しい人もいることも考えてほしい。また、最近は参加者の年齢層を決めて実施している。結婚に向けて話がまとまると本当に嬉しい。現在コンシェルジュの委員の中には、このイベントで結婚した方もいるので、そういった方の意見を聞きながら、もう少し内容を検討してほしい。 【回答】出会いコンシェルジュ事業では、イベント名に「恋活」を使用し、気軽に参加できるイメージとなるよう工夫しています。イベントは、「話す時間を多く取ってほしい」という要望が多いことから、必ず全員と一対一で話す時間を長く設けています。今後も、参加者や会員で結婚が決まった方に、アンケートを取るなど、イベント内容については実施主体である旭市後継者対策協議会で協議していきます。なお、令和7年度からスタートした第3期旭市総合戦略では、出会いコンシェルジュでの成婚数ではなく、市全体での婚姻数に見直しています。
⑤乳幼児紙おむつ購入券の給付件数は、出生数の減少で少なくなっていると思うが、そこをどう評価するのか。この支援は子育て世帯にとっては良い評価をもらっていると思うので、件数は減っているが、引き続き支援していくなどを記載で触れても良いのでは。 【回答】出生数の減少に伴い、乳幼児紙おむつ購入券の交付件数自体も減少傾向にあります。本事業は利用者からも大変好評をいただいていますので、講評欄に追記するとともに引き続き子育て世帯への支援に努めていきます。
⑥紙おむつ給付事業の給付件数を評価しているが、給付件数は出生数等により決まってしまうので、利用率で評価したほうが良い。 【回答】今年度からスタートした第3期総合戦略のK P Iにおいては、給付件数から利用率に見直しています。
⑦家庭教育学級の参加率について、基準値の平成30年度で46.0%ですが、この時と比べて令和2年度から6年度で数字が低い理由はあるか。また、参加者へアンケートなどは取っているか。家庭教育学級の開催時期は、それぞれ各年度で違うのか。例えば平日の開催時間などどうか。 ⑧合同学習会の参加率だが、平成30年の状況のあと、全然回復してきていないので、例えば実施の仕方を変えてWEB開催にしたり、時代の流れも考慮した中で検討しても良いと感じた。 【回答】合同学習会の参加率は、天候による影響や講演内容が重要であり、講演後のアンケートによりニーズ把握に努め意見を反映しているところです。開催時期は、5月は土曜、11月は平日に開催するなど、日程や内容を工夫していますが参加率が停滞している状況です。今後も様々な視点で、開催時期、回数や方法など、より多くの方が参加できるよう検討していきます。
⑨子育て成プロジェクトは、出産から子育てが大事という視点のプロジェクトだと思うので、旭市で育てたいと思ってもらうために、県内では転入が多い流山市などの成功している自治体との連携会議などを行って、その中で旭市が落とし込めるところ、必要なところをピックアップして進めてほしい。 【回答】本市では、乳幼児紙おむつ購入券給付や小中学校学校給食費無償化など様々な支援を行っています。また、今年度からは安心して子育てができる環境整備の一環として、小児科不足の解消のため補助金を創設しました。今後も若い方の転入が多く、出生率が高い自治体の子育て施策の収集に努め、本市で取り入れられる施策を検討していきます。
⑩評価の仕方ですが、基本的には平成30年頃の実績と、5年間の実績の平均を比較しているが、それだと、先ほどもあったが農業産出額のように、全国トップクラスにもかかわらずD評価になってしまうということもある。相対評価だけだと極端に低くなったり高くなったりすると感じるので、そこに全体的な評価を加味しても良いと思っている。 【回答】例えば農業算出額の評価であれば、次の第3期総合戦略でも同じK P Iを設定しているところで、継続して頑張っていくために厳しく評価していますが、ご意見を踏まえ講評欄に成果を追記するなど対応します。
⑪小児科診療について、学校等からオンライン医療相談のお知らせがあり、実際に利用してみたのですが、回答の中で最終的に「医療機関の受診」という回答が出てきてしまい、結局は受診をしなければいけないということがあった。であれば最初からオンライン「受診」を利用した方が効果的と感じる。今夏オンライン受診を利用してみたが、便利で費用も普段と変わらず安心した。市としてオンライン受診の周知を行っても良いのでは。 【回答】オンライン医療相談は、こどもの受診に迷う時や不安・疑問を医師に相談するためのサービスです。相談の結果、医師が受診が必要と判断した場合は、受診を勧めることとなります。オンライン医療も便利な反面、直接診察ではないため、診断に限界があります。また、すべての医療機関が安全基準を満たしているかどうかを利用者が見極めにくい課題もあります。そこで、市は国・県に対し、安全な基準のもとで受診ができるオンライン医療の推進を要望しています。

第2期 旭市総合戦略 重点プロジェクト 総合評価

総合評価	
S	目標を大幅に達成するなど、大きな成果が得られたとみなせる。
A	目標を達成、または、目標に達しなかったものの成果が得られたとみなせる。
B	基準値と同水準だが、取り組みは前進しているとみなせる。
C	基準値よりも下回り、前進したとは言えない。
D	基準値を大幅に下回る。
-	実績なし

重点3

重点施策3 <故郷創出プロジェクト>

	指標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	計画期間 平均値	目標値 (R6)	総合評価	講評
目標指標	人口の社会増減	▲11人 (H30)	▲ 74人 D	▲ 61人 D	93人 S	▲ 43人 D	▲ 102人 D	▲ 37人	増加	D	平均値が基準値より下回り、年度ごと評価においてD評価が半分以上あることから総合評価を【D】とした。R4は社会増に転じたが、R5から社会減が2年連続で続いており、R6は過去5年の中で最も減少数が多い年となった。
K P I	ホームページのアクセス件数	900,858件 (H30)	1,475,683件 S	1,450,173件 S	1,021,046件 S	808,492件 D	715,299件 D	1,094,139件	1,000,000件	A	平均値が目標値を上回り、年度ごとの評価においてS評価が半数以上あるものの直近2年はD評価であることから、総合評価は【A】とした。新型コロナウイルス感染症関連情報へのアクセスが減ったほか、令和4年11月から開始した公式LINEでの情報発信により、トップページを経由せずに直接該当ページにアクセスする人が増えたため、減少したと考えられる。なお、公式LINEの投稿数と友だち登録者数は、増加傾向にある。
	転入世帯数(定住促進 奨励金交付事業)	42世帯 (H30)	47世帯 A	58世帯 S	71世帯 S	48世帯 A	45世帯 B	54世帯	50世帯	A	平均値が目標値を上回り年度ごとの評価においてS評価が半数未満であることから、総合評価は【A】とした。近年、建築コストの上昇により新築住宅価格が高騰している中、新築加算(20万円)が適用されない中古住宅購入の申請(R5:4件、R6:11件)が増えたことで、交付件数は横ばいとなった。
	幽学の里で米作り交流事業参加者数	1,358人 (H30)	0人 -	0人 -	400人 D	685人 D	904人 D	663人	1,400人	D	平均値が基準値より下回り、年度ごと評価においてD評価が半分以上あることから総合評価を【D】とした。コロナ禍による縮小開催を続けていたが、R5は募集人数をコロナ以前の水準まで増加(R4延べ400人、R5延べ685人、R6延べ904人)させた。

委員からの意見及び市の回答

①ホームページのアクセス件数は、例えばニュースなどで一時的に話題となった場合に、どんな市なんだろうと検索したらそれも数に含まれるのか。 【回答】市ホームページトップページのアクセス数をカウントしていますので、ニュースなどで話題となった場合は増加することがあります。
②市ホームページのバナー広告のところの媒体資料に、アクセス数100万アクセスと書いてあるので、いずれ訂正をした方が良い。また、あさピーのインスタ投稿件数を成果指標としているが、先ほどのLINE登録者数と同じで、投稿件数だと増えるだけなので、「いいね」や、保存がどれくらいされているのかなどのエンゲージメントをKPIにしたほうが良いのかなと思う。 【回答】市ホームページのバナー広告募集ページのご指摘と思いますが、毎年1月頃に更新を行っており、現在は年間約80万件(令和5年4月～令和6年3月)に修正しています。また、イメージアップキャラクター活用の成果指標については、あさピーのインスタ投稿に対する「いいね」や「コメント」のほか、フォロワー数なども検討していきます。
③ホームページのアクセス件数について、新型コロナウイルス感染症関連ページのアクセス数が減ったことは確かに大きな理由だと思う。それと、旭市公式LINEによる情報発信により直接ページにアクセスする人が増えたためトップページの件数が減ったとあるが、それがどのくらいの割合なのかは、アナリティクスで正確な数が把握できる。また、これからは、KPIのLINEの登録者数について、ブロックを除いた数値で見えていくと思いますが、加えてメッセージを配信してどのくらい読まれたかとか、エンゲージメント率を見ていくことも検討してほしい。 【回答】ホームページやラインのアクセス数の分析(アナリティクス)については、使用方法などを研究し、可能な範囲で利用を検討していきます。また、LINE登録者数は、ブロック者を除いた数値で今後は把握していきます。なお、LINEのメッセージ開封率は、全てを把握することはできませんが、一部のメッセージについては確認できる可能性があるため検討します。
④転入世帯数の関係で、現在、住宅ローンが伸びている。一軒家の値段が上がっていて、そうなると夫婦共働きでも、なかなかハードルが高く新築が建ちにくいと思う。また、不動産業者から聞いたが、場所にもよるが、分譲の申請をすると水圧の関係があって1件なら良いが4件はダメですと言われるとのこと。分譲が増えると人が増えるかということ、移動もあるので一概には言えないが、住むところが増えないと、人も増えていけないという感覚もある。水道管は老朽化の問題もあり、簡単ではないと思うが、状況でもう少し分譲の許可の仕方を柔軟にしてほしいという声はある。 【回答】分譲地等の宅地開発時は、事前審査の中で水量計算を行い、件数分の水量に足りない場合は、事業者負担による既設配水管の増径を依頼しており、この事前審査の基準は令和5年より、実際の利用水量を勘案したもののへ緩和しています。なお、個人で新たに配水管を布設する場合は、材料費相当額を補助する制度を案内しています。
⑤ふるさと納税について、旭市の農畜水産物は全国的に有名で、積極的に活用してもらって税収を増やすという施策をより進めることで、市の財政を活性化できるのではないかと。 ⑥ふるさと納税は、今年から返礼品の掘り起こしなどを民間と連携していくと聞いているので、とても期待している。9月までは寄附にポイントがついたこともあって伸びたと思う。また、ロケ誘致によるPRとあわせて特産品などが増えることで納税額が増えていくと良い。 【回答】令和7年度から返礼品の発送管理、寄附者対応や返礼品開発のサポート業務を行う中間事業者と連携し、市の特産品であるメロンや豚肉などの返礼品の開発、ふるさと応援寄附の募集サイトの作りこみ、返礼品の魅力を積極的に発信することで自主財源の更なる確保に努めていきます。
⑦観光大使について、椎名佐千子さんとか桂竹千代さんに情報発信を依頼すると記載があるが、どういう方法か。 【回答】現在、ステージイベント出演時やInstagramなどを活用して市の観光情報をPRしていただいています。さらに観光情報を広く発信してもらうため、TVやラジオ出演時のほかYoutubeなどのSNSを活用したPRに取り組んでいます。
⑧観光大使を選ぶ基準を教えてください。芸能、文化、スポーツ選手なのか、有名な方はたくさんいると思う。PRをお願いするなら、旬な人に任期をもってお願いするほうが良いと思う。 【回答】本市の出身者であって、芸能等の分野において活躍している方や、市の発展に寄与されている方に観光大使を委嘱しています。現在は、任期を設定していないことなどから、慎重に選定をする必要があると考えています。今後、市民からの意見等を参考に、より良い選定方法を検討していきます。

第2期 旭市総合戦略 重点プロジェクト 総合評価

総合評価		重点4
S	目標を大幅に達成するなど、大きな成果が得られたとみなせる。	
A	目標を達成、または、目標に達しなかったものの成果が得られたとみなせる。	
B	基準値と同水準だが、取り組みは前進しているとみなせる。	
C	基準値よりも下回り、前進したとは言い難い。	
D	基準値を大幅に下回る。	
-	実績なし	

重点施策4 <安心形成プロジェクト>

	指標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	計画期間 平均値	目標値 (R6)	総合評価	講評
目標指標	65歳以上の新規要介護認定者の平均年齢	男81.4歳 女83.7歳 (H29)	男80.7歳 女83.3歳 C	男79.2歳 女82.8歳 C	男82.9歳 女83.4歳 B	男80.7歳 女83.7歳 C	男81.7歳 女84.5歳 S	男81.7歳 女84.5歳 (最終値)	上昇	A	当該指標は累計の数値であることから、計画期間の平均値ではなく最終のR6の数値を評価対象とした。結果は基準値を上回り目標である「上昇」となったものの、年度ごとの評価においてS評価が半数以下であったため総合評価を【A】とした。全体的に、女性はほぼ横ばいで推移し、男性は年度により変動が大きくなっているが、その要因は男性の要介護3以上認定者の平均年齢が大きく変動したことなどであると思われる。
K P I	多職種連携相談件数※	延べ 2,764件 (H30)	延べ 5,992件 S	延べ 7,427件 S	延べ 7,008件 S	延べ 6,864件 S	延べ 7,755件 S	延べ 7,009件	延べ 3,000件	S	高齢化の進展や相談内容の複雑化等に伴い困難案件が多く寄せられ、地域の多職種による連携・相談が増えたため、目標値を大幅に超えて達成していることから総合評価を【S】とした。なお、R6に増加した要因としては、各地域包括支援センターでの多職種連携により、相談しやすい環境が整ったことや、相談窓口として関係者へ周知されたことが考えられる。
	老人クラブ会員数	1,744人 (H30)	1,683人 C	1,597人 C	1,490人 D	1,389人 D	1,261人 D	1,261人 (最終値)	1,900人	D	当該指標は累計の数値であることから、計画期間の平均値ではなく最終のR6の数値を評価対象とし、基準値より10%以上下回っているため総合評価を【D】とした。65歳以上の人口は年々増加しており、既存老人クラブへの新規加入者は増えているものの、個々のニーズや価値観が多様化し他の選択肢があることや、単位老人クラブ会員の高齢化等による退会や解散するクラブがあることで、全体として減少傾向にある。
	自主防災組織の活動カバー率	61.2% (H30)	61.5% B	61.7% B	61.7% B	61.8% B	61.8% B	61.8% (最終値)	83.2%	B	当該指標は累計の数値であることから、計画期間の平均値ではなく最終のR6の数値を評価対象とし、基準値と同水準であるため総合評価を【B】とした。R2～R6はコロナ禍等により住民が参加する総合防災訓練が中止となったものの、自主防災組織の必要性について定期的に情報を発信した。しかしながら、組織の問い合わせはあるものの結成には至らなかったことから、単なる市内世帯数の増減によるカバー率の若干の変更に留まった。

※多職種連携相談件数：地域包括支援センターが医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネージャー等と連携・相談した件数

委員からの意見及び市の回答

①旭市の医療と福祉は素晴らしく、旭中央病院を起点として充実している。その中で、介護になる前の元気なお年寄りが活躍できる場所へデマンド交通を利用して、他の人と交流したいときに、利用できる場所がなかなか無い。また老人クラブ会員数も減少傾向にある中で、孤立する高齢者が増えている。人口減少とともに、核家族化が進み、独居や高齢者世帯、そういう方たちをどうするのが大切である。次のステップとして、1つに老人クラブの位置づけが大事だと考えるが、そこへの検討が見えないがどうか。 【回答】老人クラブの加入促進については、実際の体験を通じ加入に結び付けるため、連合会主催の行事には加入予定者でも参加を可能にするなど参加要件を緩和する取り組みを行っており、若手会員の加入促進を図るため、参加したくなるイベントの開催や勧誘活動を引き続き実施していきます。また、介護サービスを使っていない独居高齢者については、地域包括支援センターに訪問調査を依頼しており、孤立している高齢者について相談があれば、生活支援コーディネーターとの連携により、通いの場などの介護予防活動へ繋げる活動を行うとともに、地域住民へ新規立ち上げ、活動継続の支援等も行っています。
②老人クラブという言葉は使わないようにしていて、シニアクラブと呼んでいるが、どこの自治体でも減少していて、特に役員をやってくれる方がいないという状況で、旭市も同様ではないかと思う。どのように老人クラブを復活させていくのか難しいと感じている。私もクラブに加入しているが、とても楽しい。楽しいことを説明するが、元気な高齢者はなかなか加入されない。民生委員の方も大変だと思うが、それでも高齢者が孤立しないように、話相手に時々なってあげられるような取り組みを市で考えてあげてほしい。 【回答】民生委員には高齢者世帯を含め地域の見守り等を行っていただいておりますが、訪問活動の中で、社会福祉協議会が実施する「おたっしゃ会」や講座など外出を促す活動の周知等もお願いしています。引き続き、高齢者が孤立することがないよう、見守り活動を行っていきます。
③災害時の避難場所は学校になっているが、その時に門の開け閉めなどはどうなっているか。よく近所の方が鍵を持っていると聞いている。 【回答】全ての避難所に暗証番号付きのキーボックスを設置しており、市内で震度5強以上の地震が発生した場合は、あらかじめ指名した避難所直行職員が向かい、避難所を開設することとしています。現在、近所の方へは鍵をお渡ししておりませんが、必要に応じてお渡しすることも検討してまいります。
④消防団について、市の行政改革の中で再編を求められていて人員や車両削減に向けて委員会を立ち上げ進めていく。また、新たに女性消防団員が3名入団してくれたので、今後も増員に向け産業まつり等でPRしていきたい。 【回答】消防団員のなり手不足が深刻化しており、将来にわたって消防団組織を継続していくために、消防団や地域の協力のもと、消防団組織の再編成を進めていきます。また、火災予防や救命講習など多方面で活躍できる女性団員の募集に今後も力をいれていきます。

第2期 旭市総合戦略 重点プロジェクト 総合評価

総合評価	
S	目標を大幅に達成するなど、大きな成果が得られたとみなせる。
A	目標を達成、または、目標に達しなかったものの成果が得られたとみなせる。
B	基準値と同水準だが、取り組みは前進しているとみなせる。
C	基準値よりも下回り、前進したとは言い難い。
D	基準値を大幅に下回る。
-	実績なし

重点5

重点施策5 <旭市生涯活躍のまち構想>

	指標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	計画期間 平均値	目標値 (R6)	総合評価	講評
目標指標	人口の社会増減	▲11人 (H30)	▲ 74人 D	▲ 61人 D	93人 S	▲ 43人 D	▲ 102人 D	▲ 37人	増加	D	平均値が基準値より下回り、年度ごとの評価においてD評価が半分以上あることから総合評価を【D】とした。R4は社会増に転じたが、R5から社会減が2年連続で続いており、R6は過去5年の中で最も減少数が多い年となった。
K P I	生涯活躍のまちへの 移住者数	－ (R1)	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	200人	－	KPIの実績がないことから総合評価を【－】とした。引き続き移住者向け住宅の検討は、事業者グループで進められている。
	移住相談件数	91件 (H30)	114件 A	148件 A	160件 A	176件 A	165件 A	153件	200件	A	これまで、都内での移住相談会の企画実施やSNSでの情報発信など、地域おこし協力隊員が主体となった活動が増えたこともあり、年間100件を超える件数を維持し、H30から約2倍近い件数となっていることから、総合評価を【A】とした。なお、地域おこし協力隊は令和6年10月に1名増員している。

委員からの意見及び市の回答

①みらいあさひ協議会については、現在、中心市街地の中で屋台活動など行ったりして、市でも注目してもらっていると思う。また、おひさまテラスでも人が集まるように展開している中で、まだまだ行ったことがないという人もいるので、まずは、文化活動で利用してもらうような取り組みを積極的に進めていきたい。また、移住者の方のコミュニティの面では、退職された年代の方も多くいる中で、地域おこし協力隊が行っている移住者交流会が友達をつくったりする交流の場になっていると思う。 【回答】おひさまテラスでは、大学や専門学校、地域団体や民間事業者等と協力しながらイベントを開催するなど、様々な活動が行われています。この活動の中には自由に参加することができるものもあり、移住者のコミュニティづくりの場にもなりますので、より多くの方に参加してもらうため、引き続き情報発信に努めていきます。
②移住相談が、相談件数が横ばいであるが、良いのか。また、県主体の移住相談会なども参加できないことがあったとあるが、移住サポートセンターとも連携し、市が積極的に参加してほしい。 【回答】都内で開催する移住相談会は多くの移住相談を受けることができますが、近年は移住施策に取り組む県内自治体が増えてきたこともあり、令和6年度は千葉県が都内で開催する移住相談会に参加できないことがありました。このような中、地域おこし協力隊員の活動などが増えたことにより、移住相談件数が令和5年度実績とあまり変わらない件数だったことは、良い意味で横ばいだったと考えています。
③先日、移住した方が、旭市は車がないと生活できないよね、コミュニティバスも乗ったら最後帰って来れないと話をしていた。その中で、皆さん横芝光町の成田行きバスは使っているそうで、いいよなと言っていた。その時に旭市のコミュニティバスは本数が少ないので無料にしても乗らないという話もあって、せっかく今年20周年事業として行ったとは思いますが残念だったと思いました。 【回答】地方においては、車は生活に欠かせないものではありませんが、本市では、持続可能な公共交通を目指し、市民の移動手段を確保するためコミュニティバスやデマンド交通等の利便性向上に引き続き取り組んでいます。また、旭市20周年記念事業として令和7年8月に行ったコミュニティバス運賃無料の利用者は6,556人で、対前年同月比較で+2,051人（45.53%増）であり、利用促進に繋がったものと考えています。